

平成 30 年第 2 回 浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 平成 30 年 10 月 30 日 (火)
2. 場 所 中央公民館第 1 会議室
3. 開 会 午前 9 時 00 分
4. 閉 会 午前 9 時 59 分
5. 出席者 市長 栗山康彦 教育長 中野留美
教育委員 中務美保子 教育委員 藤澤弘幸
教育委員 佐藤賢次 教育委員 高戸 崇
意見聴取者 田辺義博 意見聴取者 三宅和伸
6. 説明のために出席した者の氏名
教育次長 小山朋子 教育総務課長 難波勝敏
学校教育課長 村下徹 こども未来課長 笠原清美
文化振興課長 清水房恵 生涯学習課長 清水真
CS コーディネーター 谷野善則 (鴨方東小学校教諭)
教育総務課 岡本道雄 (事務局)
7. 議事の概要
教育次長 平成 30 年第 2 回浅口市総合教育会議の開会を宣する。
次第 2 市長挨拶について
市 長 この総合教育会議は、市長と教育委員会が十分な意思の疎通
を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有するという目
的で設置している。本日の議題は、「コミュニティ・スクール
導入に向けて」であります。本日も忌憚のないご意見をお聞
かせください。
教育次長 次第 3 協議題について
浅口市総合教育会議運営要綱第 3 条の規定により、市長に議
事進行を求める。
市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。
協議題 1 コミュニティ・スクール導入に向けて。
事務局に説明を求める。
学校教育課長 資料 (コミュニティ・スクール) に基づき、説明を行う。
「コミュニティ・スクールについて」説明させていただく。コ
ミュニティ・スクールは、保護者や地域住民、学識経験者な
どが学校運営に参画することで、「開かれた学校づくり」を实
現することを狙いとし、平成 16 年「地方教育行政の組織及び
運営に関する法律第 47 条の 5」で法整備が行われ、平成 17
年度創設された。平成 29 年 4 月からは、「地方教育行政の
組織及び運営に関する法律第 47 条の 6」が改正され、コミュ

ティ・スクールの設置が教育委員会の努力義務となり、導入する学校も増加傾向にある。文部科学省が作成した、別紙資料1「コミュニティ・スクール2018～地域とともにある学校づくりを目指して～」をご覧ください。子ども達を取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、その解決や未来を担う子ども達の豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠とされている。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって学校づくりを進めるための有効な仕組みをコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)という。コミュニティ・スクールには学校運営協議会が置かれ、学校教育目標の実現に向け、保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って、学校経営方針や学校運営全般等、承認や協議、評価を行う。資料の1枚目、2をご覧ください。コミュニティ・スクールの仕組みを取り入れるメリットについて、教職員には、数年ごとに人事異動があり、一人の人におんぶにだっこでは、人事異動のたびに学校運営にブレが生じていましたが、学校運営協議会という地域との組織的な協働体制が整っていることで持続可能な体制として継続していくことがあげられる。また、学校運営協議会での熟議により、学校・保護者・地域住民がどのような子どもを育てていくのか「目標やビジョン」を共有することができ、その実現に向けて当事者意識を持って協働による取組を進めることができる。魅力について、それぞれの立場で示していますが、追加として、「地域とともにある学校づくり」を学校に求めていく一方で、「学校を核にした地域づくり」いわゆるスクール・コミュニティの推進も促されていると感じている。将来の地域を担う「子どもの育ち」はもちろんのこと、「大人の育ち」「大人どうしのつながり＝地域の育ち」も重要になってくる。コミュニティ・スクールとスクール・コミュニティを両輪とした取組により地方創生へとつながることが期待できると考えている。資料2枚目上段には、現行の学校評議員会との比較ができるものを掲載している。後ほどご確認ください。また、下段4には、コミュニティ・スクール導入スケジュールを紹介している。今年度は、鴨方中学校区へ、来年度は金光・寄島中学校区へ拡大し、市内全校での導入完了を目ざす予定である。資料3枚目は、浅口市のコミュニティ・スクールのイメージをポンチ絵で示したものの。後ほどご覧ください。それでは、この後は、昨年度コミュニティ・

スクールモデル校としてスタートしました鴨方東小学校より取組の実践について説明していただく。説明はコミュニティ・スクール略して「CS」と呼んでいます。が、「浅口市CSコーディネーター」の谷野教諭が行う。それでは谷野CSコーディネーターよろしくお願ひします。

谷野教諭 スライド（鴨方東小学校の保護者・地域と協働したコミュニティ・スクールとビジョンの共有）に基づき、説明を行う。

市長 協議題1コミュニティ・スクールについて説明がありました。が、ご意見ご質問等ありますか。

中務委員 コミュニティ・スクールは、地域にとっても保護者にとっても子どもにとってメリットがある。と考える。立ち上げ時には生みの苦しみはあると思うが、導入スケジュールも決まっております。全校うまくスタートできると思う。

藤澤委員 地域の方が目を向ける、学校に地域の方が入ってくることで改善されることもあると思う。地域と一体となって学校づくりを進めるコミュニティ・スクールは有効である。

佐藤委員 鴨方東小学校の取組は、いい形になっておりコミュニティ・スクールを全市に広げていくのはよい。ビジョンを共有して取り組む。ゆるやかに学校を応援していく形での進め方はいいと思う。そして、地域と学校が協力していく中で、時間はかかると思うが、地域を変えていけることができればよいと思う。情報発信も大事だと思う。

高戸委員 2年程前から取り組んでおり、今になってこういう事だったんだと思う。特に、地域とのつながりが大事だと感じた。地域と連携し学校づくりを進めるコミュニティ・スクールは、災害時の安否確認や安全確認等地域の方と協力してスムーズにできるかなと思った。先日、地域フォーラムに参加してきたが、災害時では、小学校区単位で対応することで、細やかな取組ができたという話を聞いた。

教育長 コミュニティ・スクール導入の取組について、地域にもっと知ってもらいたい。そのためにも、地域創造課の職員にも今日は来てもらっているので一緒になってやっていきたい。他県の例では、まちづくりや防災にも役立つものである。また、学校単位で進めているが、地域にこういう取組を知っていただきながら進めていく必要がある。学校の先生が、地域にどんな人がいるかを知ることから始めることが大事。学校の特色を活かしながら進めていきたい。

市長 私からも事務局にお尋ねしたい。コミュニティ・スクール導

- 学校教育課長 入に向けて何か難しさを感じた事があれば教えてほしい。
- 学校教育課長 地域とのつながりでいうと、協力を得るためには教育と行政がつながったまちづくりの視点がないといけない。そのためには、行政と連携を密にする、組織づくりが課題とを感じる。バックアップ体制としては、もっと力をつけていく必要がある。
- 市長 今のことに對して、何か意見等がありますか。
- 佐藤委員 関連して、鴨方東小学校とのかかわりの中で、教育委員会事務局がどのような役割をはたしてきたのか。予算的なことや委員の人材確保の面などはどうなのか。
- 学校教育課長 予算的なところでは、学識経験者にお礼を教育委員会の方で予算計上している。委員の人材確保では、学識経験者として岡山大学の先生にお願いをした。10校に広げていく中で、学識経験者の確保ということもこれからは大事である。大学との連携ということも進めていきたい。継続していくためには工夫も必要になってくる。
- 市長 他に何かありますか。
- 市長 市長部局の話を少しさせていただくと、予算を組む上で、昨年からスクラップアンドビルドを前面に打ち出している。既存の事業を見直し、止めるべきものはやめ、そして新しくやるべきことをやるということ。やめる勇気が必要。そうしないと仕事量が増え、先生方の負担も増す。コミュニティ・スクール導入はビルドに当たるので、スクラップも検討しないといけない。新たなものを始めるには、古いものを捨てていく必要がある。何かご意見はありますか。
- 藤澤委員 コミュニティ・スクール導入はスリム化に繋がると思う。ボランティアが中心なので大量の予算をつぎ込むイメージはない。先生の負担が減り人件費も削減できスリム化が図れる。ただ、ボランティアをする人が限られているので一部に集中しているように思う。地域の皆でやれる体制になればよいと思う。ビジョンを共有し、ぼやけないようにする必要がある。
- 市長 ボランティアの方には大変感謝している。ただ、人材確保には役所も苦勞している。他に何かありますか。
- 構成員 特になし。
- 市長 次第4その他につきまして、何かありますか。
- 佐藤委員 先日の菊池先生を招いての学級経営アドバイザー授業について、見させてもらった。子どもの表情が非常に良かった。褒める授業について継続して実施してもらいたい。今後いろん

な形で成果が出ると期待できる。

中務委員 菊池先生の授業を私も見させていただいた。褒める・認める・励ます。とても良い授業だった。褒める授業について継続して実施してもらいたい。また、教育週間に数校だけ見に行った。落ち着いて学習していた。支援員の方々の協力もあり、落ち着いていた。基礎ができているということは、伸びしろがあるということ。学習支援についても今の環境を継続してもらいたい。

市長 生活支援員及び学習支援員の配置率は県下でも自慢できる。市だけで、これを継続していくのはなかなか難しくなっている。県にも訴えていきたい。合併特例の関係で、交付税が8億円程段階的に減っている中で、今までのように予算を組めなくなってきている。スクラップアンドビルドを実施していくしかない。だが、子どもたちへの投資は進めていこうと言っている。そのためにも、スクラップアンドビルドをお願いしている。予算的な話をして申し訳ないが、そういう状況だということも知っておいていただきたい。

教育長 諸課題について事務局で精査し、市長と相談しながら進めていきたいと思う。また、委員の皆様にはしっかりご意見をいただきたいと思っています。

市長 その他について、何かありますか。

構成員 特になし。

市長 その他について、事務局から何かありますか。

教育次長 特になし。

市長 平成30年度第2回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。